

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 SASSEN研究会

テーマ 新スポーツ「SASSEN」で学校・地域を活性化

取組のポイント・成果

本校では「スポーツチャンバラ」を部活動として立ち上げ、23年経過した。これまで世界選手権大会等の多くの大会で入賞者を輩出するなど活躍してきた。また、地域のスポーツ教室やイベント会場等では指導や審判をして、裏方として地域に貢献してきた。

最近TV等で紹介されている「SASSEN(サッセン)」は、SASSEN刀を使い、相手の体を打つスポーツである。また、SASSENは試合形式だけでなく手軽で簡単なレクリエーションとしての楽しみ方もでき、健康の保持・増進を目的に「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる」生涯スポーツである。「スポーツチャンバラ」と共通する点を活かし、スポーツチャンバラだけでなく、SASSENも取り入れながら本校を地域の拠点として、部活動や地域のレクリエーション等で生涯スポーツとして多くの人の笑顔と健康をサポートしていきたいと考え、次のような取組を行った。

取組

① 外部のイベントに参加し、SASSENの特徴やルールを知る。

まずは代表者が東京や横浜で行われているイベントに参加して競技の特徴やルールを学んだ。

<参加したイベント>

- ・未経験歓迎体験会 & 公式戦「綺羅杯」(個人戦・団体戦)
【7月24日(日)・あしたのじぶんけんきゅうじょ (A-LABO) : 東京】
- ・公式戦「全国大会」(個人戦)
【10月30日(日)・あしたのじぶんけんきゅうじょ (A-LABO) : 東京】
- ・未経験歓迎体験会 & 公式戦(個人戦・団体戦)
【11月13日(日)・横浜馬車道スタジオ : 横浜】

② 本校のスポーツチャンバラ部員にSASSENの特徴やルールを教え、他の高校生及び地元の小中学生を対象とした体験会を複数回開催する。

イベントで学んだことや身に付けたことを本校スポーツチャンバラ部員(6名)に部活動を通して、伝達し、指導を行った。また、他の高校生及び地域の小中学生を対象とした活動でSASSENの普及を行い、共にスポーツを楽しむ習慣づけやスポーツの大切さを意識づけた。

<本校及び県内で実施した体験会・練習会>

- ・部活動(スポーツチャンバラ部員対象)にて、SASSEN体験会及び練習会【9月～1月】
- ・地域のクラブ活動(地域総合型クラブ Let's たるい スポーツチャンバラクラブ員対象)にてSASSEN体験会【9月～1月】(延べ30人が参加)
- ・公式大会での体験会
【10月2日(日)・ぎふ清流レクリエーションフェスティバル スポーツチャンバラ競技大会】(延べ40人が参加) 県内での体験会を実施
- ・可児市FCV主催 SASSEN体験会(小学生1年生～3年生を対象 延べ40人が参加)
【12月24日(土)・可児市下恵土地地区センター体育館】(※悪天候のため延期されたが2月4日(土)に実施)

成果

- この活動を通して、本校の生徒をはじめ、地域や県内の人にも「SASSEN」の楽しさや剣術の奥深さを体験してもらうことができた。本校と地域をつなぐ架け橋となった。また、この事業と別に自身でも「SASSEN」の公認インストラクターの資格を取得したことで、専用の用具やアプリを使って実際に指導することができた。
- ・スポーツチャンバラの部活動で「SASSEN」を取り入れたことを、NHK「まるっと！ぎふ」で放送され、県内の多くの人にも「SASSEN」を知っていただく機会を得た。

今後の課題

課題1 用具について

SASSEN刀を購入すると20万程かかる。今年度は、8月～3月までのリース契約(22万円)で使用することができた。SASSEN刀は、現段階でも圧力センサーやバッテリーなどがバージョンアップしており、購入の場合は、バージョンアップの恩恵を得られないが、リースの場合は、利用の途中でもバージョンアップすれば新しい刀を使うことができる。しかし、今後SASSENの魅力も多くの人に理解してもらうためにはSASSEN刀は必要不可欠である。そのためには、高額な予算調達の検討が必要になる。

課題2 生涯スポーツとして多くの人々の笑顔と健康をサポートするために

来年度も本校スポーツチャンバラ部を拠点に、スポーツチャンバラとSASSENができる環境を整えることが必要である。県内での公式体験会や公式大会を開催し、スポーツチャンバラやSASSENを通して、スポーツチャンバラ部部員だけでなく、校内外において一人でも多くの県民が生涯にわたり、健康でいられる体制づくりに寄与していきたい。

課題3 本校の活動のさらなる発展に向けて

新たに県内でSASSEN協会を設立し、岐阜県レクリエーション協会との連携をとり、地域のレクリエーション等で部員の生徒ともに普及活動に努めていきたい。